第 10 回地球研東京セミナー

地球環境と生活文化

——人新世における学び

Global Environment and Lifestyle: Learning in the Anthropocene III

2018 年 12 月 15 日（土）、16 日（日）

会場：東京大学駒場キャンパス 学際交流ホール（15 日）
　　　東京大学本郷キャンパス ライブラリープラザ イベントスペース（16 日）

主催：大学共同利用機関法人 人間文化研究機構　総合地球環境学研究所

共催：東京大学大学院博士課程教育リーディングプログラム
　　「多文化共生・統合人間学プログラム（IHS）」

はじめに

日々の暮らしも、デザインも、私たちはしばしば、その答えを「シンプルさ」に求めます。とはいえ、あらためて「シンプルに生きる」とはどういうことかと問われると、ちょっと考え込んでしまいます。しかも、そのような個人の生のありかたは、広く地球や社会の持続にどう関わってくるのでしょうか。

作られた物を消費する力から、既にある物を探し出す力へ。私たちが価値を置く力が変わるとき、私たちにもきっと大きな変化が訪れるはず。そんなイメージをもって企画されたのが、今回の東京セミナーです。民主主義をテーマにした前回から、今回は日常に扱う物に焦点を当て、生活文化の側面から人新世を考えることにしました。

前回の「地球環境と民主主義－人新世（Anthropocene）における学び」に引きつづいて東京大学大学院博士課程教育リーディングプログラム「多文化共生・総合人間学プログラム（IHS）」との共催企画です。

今回は、日本各地から集まった博士課程リーディングプログラムの履修生等と地球研の研究者による16件のポスター発表を受けて、無印良品の商品開発に携わってきた矢野直子さん（株式会社良品計画 生活雑貨部 企画デザイン室長）と、哲学者の鞍田崇さん（明治大学理工学部 准教授）による講演と対話を行い、翌日にポスター発表者間でふりかえる、という構成をとっています。

このブックレットは、参加したリーディングプログラム履修生たちと地球研の研究者が、2回にわたる哲学対話を含む2日間に渡るメニューをこなした内容をまとめた記録集です。また、巻末に東京大学IHSとの3回にわたる共催企画を見渡した企画者間の放談を掲載しています。

表題は、前回に続き「コンヴィヴィアル（自立共生）な社会」としました。それは、人間の本来性を損なうことなく、他者や自然との関係性のなかでその自由を享受し、創造性を最大限発揮させていく社会、技術や制度に隷従するのではなく、人間にそれらを従わせる社会（http://www.chikumashobo.co.jp/product/9784480096883/）です。1973年にイヴァン・イリイチが提示したこの構想に対し、今の私たちは何と答えればよいのでしょうか。このブックレットを手にとられた方が、何らかの形でその答えに近づくきっかけを得られたとしたら、この企画の目的は達成されたといえそうです。

平成31年3月

第10回地球研東京セミナー 報告書　編集代表　熊澤 輝一